



間質性膀胱炎の血液バイオマーカー開発

鳥本 一匡

Kazumasa Torimoto

泌尿器科学／准教授

■**キーワード** 間質性膀胱炎、診断、血液バイオマーカー、
内因性カンナビノイド、アナンダミド

臨床

シーズ概要

間質性膀胱炎・膀胱痛症候群 (Interstitial Cystitis/Bladder Pain Syndrome: IC/BPS) は、「膀胱に関連する慢性の骨盤部の疼痛、圧迫感または不快感があり、尿意亢進や頻尿などの下部尿路症状を伴い、混同しうる疾患がない状態」の総称で、ハンナ病変があればハンナ型 IC、なければ BPS である。IC/BPS は病態が不明で、診断基準および治療が確立されていない難病である。内視鏡検査によるハンナ病変の確認が重要であるが、客観的指標がないため確定診断が困難である。また、同じく頻尿を呈し有病率が高い過活動膀胱 (Overactive Bladder: OAB) と誤って診断されることが多い。

前向き並行群間試験としてハンナ型 IC 群、BPS 群、OAB 群、下部尿路症状がないまたは軽微な対照群を対象に、血清内に含まれる 323 の代謝物でメタボロミクスを行った。内因性カンナビノイドであるアナンダミド濃度が、ハンナ型 IC 群および BPS 群で OAB 群および対照群よりも有意に高いことが分かった。

研究成果の応用可能性

血液バイオマーカーを指標として、IC/BPS と OAB を判別できる。

Appeal Point

アピールポイント

診断が難しい難病である間質性膀胱炎の診断に有用な世界初の血液バイオマーカーを発見した。

関連文献／特許

1. Low Urin Tract Symptoms (in press)
2. 出願番号：特願 2023-60523
出願日：2023年5月16日